



成田空港給油施設株式会社

2024年3月4日

次世代バイオ燃料を導入！

～作業車両に使用する燃料の脱炭素化の推進～

成田空港給油施設株式会社（以下、「NAAF」）は、CO₂排出量削減への取り組みとして、成田国際空港内で使用している作業車両（2kL タンクローリー）に、従来使用していた軽油の代替燃料として次世代バイオ燃料であるリニューアブルディーゼル（以下、「RD」）を導入しました。^{※1}

RD は廃食油等を原料として SAF^{※2} 製造に伴う副産物として生成される次世代バイオ燃料であり、軽油に比べて約 90%の CO₂ 削減^{※3} が可能となるため、電動化等の置き換えがまだ難しい車両の CO₂ 排出量削減に大きな効果を発揮します。

NAAF では今回の取り組みに加え、今後も航空機給油施設における CO₂ 排出量削減に向けた取り組みを推進し、成田国際空港が掲げている「サステナブル NRT2050」の達成目標や脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

1. 導入開始日
2024年3月4日（月）
2. 内容
RD を作業車両（2kL タンクローリー）の駆動用燃料として使用
3. CO₂ 削減量
約 2 トン/年
4. SDGs 目標



<参考> サステナブル NRT2050 ロゴ ([概要リンク](#))

※1 成田国際空港株式会社の関連ニュースリリース (naa.jp)

※2 SAF=持続可能な航空燃料 (Sustainable Aviation Fuel) の略称、再生可能又は廃棄物を原料とするジェット燃料

※3 ライフサイクルアセスメント (ライフサイクルで生じる環境負荷の総合的評価) ベースの GHG (温室効果ガス) 排出量において、石油由来の軽油と比べて約 90%を削減